

2022 年度（令和 4 年度）

# 事業報告書

自 2022 年（令和 4 年）4 月 1 日

至 2023 年（令和 5 年）3 月 31 日

公益財団法人 日本ライフセービング協会  
JAPAN LIFESAVING ASSOCIATION  
( J L A )

## 目 次

### 【公益目的事業】

- < 1 > 監視救助事業
- < 2 > 資格認定事業
- < 3 > 安全・防災教育・環境保全事業
- < 4 > 競技推進事業
- < 5 > 国際交流事業
- < 6 > 広報活動事業
- < 7 > その他の事業

### 【その他の事業】

- < 1 > 認定ライフセーバー養成のための資格認定事業

備考：表記について

- ・国際ライフセービング連盟 → I L S
- ・日本ライフセービング協会 → J L A
- ・L S → ライフセービング
- ・L S C → ライフセービングクラブ

## 【公益目的事業】

ライフセービングに関する公益目的事業として、海岸・プール等をはじめとする全国の水辺の事故防止に向けた安全教育、監視・救助、防災・防災教育、環境保全等を行うライフセービングの普及・啓発及び発展に関する事業を行う。

### < 1 > 監視救助事業

#### 1. 監視救助業務

(1) 監視救助事業とは、海岸や河川、プール等の水辺に海水浴客やスポーツイベント等の来客が訪れた際、その監視と救助を行う事業である。

本協会では静岡県、東京都、和歌山県、神奈川県自治体から各海水浴場の監視救助活動業務の依頼を受けて事業を実施した。また、その他の自治体については、都道府県協会又は各加盟クラブがその依頼を受けて事業を実施しており、本協会はそれらについては活動支援を行った。ただし、今後は迅速な対応が求められることなどから都道府県協会や各加盟クラブが事業を実施する形態に順次移行していく方針である。

	海水浴場名	地区	期間
1	熱川温泉 You 湯ビーチ	静岡県東伊豆町	7/23-8/21
2	今井浜海水浴場	静岡県河津町	7/16-8/21
3	土肥海水浴場	静岡県伊豆市	7/16-8/25
4	小土肥海水浴場		
5	大浜海水浴場	静岡県西伊豆町	7/16-8/21
6	乗浜海水浴場		
7	浮島海水浴場		
8	田子瀬浜海水浴場		
9	黄金崎海水浴場		
10	深田海水浴場		
11	松崎海水浴場		
12	岩地海水浴場		
13	石部海水浴場		
14	雲見海水浴場		
15	新島地区・第一前浜海水浴場	東京都新島村	8/1-8/31
16	新島地区・第二前浜海水浴場		
17	新島地区・第四前浜海水浴場		
18	新島地区・間々下浦海水浴場		
19	新島地区・若郷前浜海水浴場		
20	新島地区・羽伏浦海水浴場		

21	式根島地区・泊海水浴場		8/1-8/31
22	式根島地区・大浦海水浴場		
23	式根島地区・中の浦海水浴場		
24	式根島地区・石白川海水浴場		
25	三宅島地区・錆が浜海水浴場	東京都三宅村	7/16-8/15
26	三宅島地区・三池浜海水浴場		
27	三宅島地区・伊ヶ谷浜海水浴場		
28	三宅島地区・大久保浜海水浴場		
29	三宅島地区・長太郎池海水浴場		
30	白良浜海水浴場	和歌山県白浜町	7/15-9/1
31	神奈川県協定 エリアマネージャー巡視	神奈川県 三浦市/横須賀市エリア	7/1-8/31
		神奈川県東部エリア (葉山～腰越)	7/1-8/31
		神奈川県中央エリア (東浜～茅ヶ崎)	7/1-8/31
		神奈川県西部エリア (平塚～湯河原)	7/1-8/31
32	神奈川県協定/三浦海岸	神奈川県三浦市	7/2-3, 9-10, 7/16-8/31
33	神奈川県協定/大浦海岸	神奈川県三浦市	7/16-8/31
34	神奈川県協定/横堀海岸	神奈川県三浦市	7/16-8/31
35	神奈川県協定/辻堂海岸	神奈川県藤沢市	7/9-10
36	神奈川県協定/平塚ビーチパーク	神奈川県平塚市	7/9-10
37	神奈川県協定/大磯海岸	神奈川県大磯町	7/2
38	神奈川県協定/湯河原海岸	神奈川県湯河原町	7/9-10

(2) スポーツイベント (\*オープンウォータースイミングやトライアスロン、水泳等) の監視とその救助を行う。

\*「オープンウォータースイミング」海、川、湖など、自然の水の中で行なわれる長距離の水泳競技であり、国際水泳連盟が定める競技規則のもと国際的に統一されたルールで行われ遠泳とは異なる。「OWS」と略す。

事業内容	開催日	参加延数	会場
千葉県水泳連盟 日本マスターズ水泳短水路大会 2022	4/16-4/17 (2日間)	12名	千葉国際総合水泳場
日本ボート協会 第100回全日本ボート選手権大会	5/12-5/15 (4日間)	36名	海の森水上競技場
日本水泳連盟 OWS オーシャンズカップ館山 2022	6/11-6/12 (2日間)	24名	館山市北条海岸

栃木国体実行委員会 栃木国体 OWS プレ大会	7/1-7/3 (3日間)	22名	市貝町大会会場
東京都水泳協会 伊豆大島 OWS (東京都選考会)	7/2-7/3 (2日間)	20名	大島町 OWS スイムエリア
東京都ボート協会 国体関東ブロックボート競技大会	7/9-7/10 (2日間)	18名	海の森水上競技場
館山 OWS2022 実行委員会 館山 OWS2022	7/16-7/17 (2日間)	20名	館山市北条海岸
栃木国体実行委員会 栃木国体トライアスロンプレ大会	7/23-7/24 (2日間)	20名	那須塩原市大会会場
栃木国体実行委員会 栃木国体 OWS 本大会 (中止)	9/8-9/10 (3日間)	39名	市貝町大会会場
日本マスターズ水泳協会 日本マスターズ水泳選手権大会	9/28-10/2 (5日間)	22名	門間スポーツセンター
栃木国体実行委員会 栃木国体トライアスロン本大会	10/1-10/2 (2日間)	24名	那須塩原市大会会場
泉南スポーツコミッション協会 泉南 OWS 大会 2022	10/7-10/8 (2日間)	30名	泉南市 OWS スイムエリア
日本トライアスロン連合 全日本選手権	10/9 (1日間)	11名	お台場海浜公園
日本水泳連盟 OWS 委員会 OWS 日本選手権	10/14-10/16 (3日間)	38名	館山市北条海岸
須崎 OWS 大会 2022 実行委員会 須崎 OWS 大会 2022	10/22-10/23 (2日間)	30名	須崎市 OWS スイムエリア
千葉県水泳連盟 千葉マスターズスイムフェスティバル 2022	10/23 (1日間)	6名	千葉国際総合水泳場
日本トライアスロン連合 ワールドトライアスロンカップ 2022	10/26-10/30 (5日間)	45名	宮崎臨海公園
日本アウトリガーカヌー協会 第1回日本アウトリガーカヌー協会レース	10/26 (1日間)	6名	逗子海岸
日本マスターズ水泳協会 スプリント選手権	11/26-11/27 (2日間)	4名	千葉国際総合水泳場
千葉県水泳連盟 千葉スイムフェスティバル 2023	1/15 (1日間)	6名	千葉国際総合水泳場
新春マスターズスイムミート 2023 実行委員会 新春マスターズスイムミート 2023	2/11-2/12 (2日間)	8名	千葉国際総合水泳場

## 2. 水辺の溺水事故防止に向けた調査研究

ライフセービングレポート（全国パトロール統計）の集計および、レスキューレポート、傷病者等記録票の検証とフィードバック、水浴場調査を実施した。本協会に加盟するライフセービングクラブが全国において監視救助活動を行った結果を集計し、それを公表することで水辺の溺水事故防止につなげる事業である。

結果は例年本協会の事業報告書で公開し、2022年度においては報告海水浴場計 207 か所、たずさわったライフセーバー総数は 42,845 人、パトロール延時間は 351,335 時間であった。

	2022年	2021年	2020年	2019年
報告水浴場数	207	157	107	197
水浴客総入込数	4,407,175	2,139,325	1,498,088	8,289,594
レスキュー総数	507	314	291	2,128
Preventive Action	449	308	284	2,113
Emergency Care	19	6	7	15

	2018年	2017年	2016年	2015年
報告水浴場数	200	195	204	197
水浴客総入込数	9,522,415	8,524,042	11,727,383	11,260,363
レスキュー総数	2,362	1,776	2,276	3,163
Preventive Action	2,334	1,761	2,239	3,123
Emergency Care	28	15	37	40

## 3. 監視救助活動の推進に向けた器材等配備支援

全国のライフセーバー及びライフセービングクラブに対して、監視救助活動で利活用する器材等の配備を行った。一部有償で支援を行っているが、原価及び管理経費による支出のため利益を伴う事業ではない。

### (1) 監視救助用ユニフォーム等の配備支援

- ・対象：本協会認定資格所有者
- ・内容：パトロールユニフォーム、パトロール水着等

監視救助用ユニフォーム	数量
パトロールユニフォーム長袖	237
パトロールユニフォーム半袖	503
ビーチパトロールシャツ半袖	48

プールライフセーバー半袖	14
サーフパンツ男子	479
サーフパンツ女子	197
男子水着ボクサー型 1	47
男子水着ボクサー型 2	161
男子水着ブーメラン型 1	27
男子水着ブーメラン型 2	60
女子水着トップス型 1	82
女子水着トップス型 2	34
女子水着ボクサー型 1	36
女子水着ボクサー型 2	16
女子水着ブーメラン型 1	48
女子水着ブーメラン型 2	23
ラッシュガード	100
サーフハット	0
つば付きキャップ	249
パトロールキャップ綿型	0
パトロールキャップ伸縮無型	9
パトロールキャップ伸縮有型	296

(2) 監視救助用器材等の配備支援 ※日本財団助成事業

- ・対象：都道府県協会及び加盟クラブ
- ・内容：レスキューボード/チューブ/ボード用ラック、IoT等を活用した監視救助システム

配備品	数量
レスキューボード	53本
レスキューチューブ	71本
ボード用ラック	32本
高度化事業* IoT監視救助システム（神奈川県鎌倉市由比ガ浜）	一式

\*ライフセービングの高度化事業

JLAでは先端技術を取り入れたライフセービングの高度化を2019年より進めている。

① AIとIoTを活用した海辺のみまもりシステムの開発

2019年に開発し、2022年までに全国4ヶ所（千葉御宿、宮崎青島、福井若狭和田、鎌倉由比ガ浜）で運用。このシステムは、AIが離岸流発生と離岸流エリアへの利用者の立ち入りをリアルタイムで自動検知し、離岸流発生時には、利用者のスマートフォンアプリにアラートを通知、また、ライフセーバーのスマートウォッチにも通知、離岸流エリアへの利用者の立ち入りがあった際にはライフセーバーのスマートウォッチに救助要

請を発報。

また、津波注意報、警報発令時には、海岸利用者数を自動カウントし管轄行政の登録メールアドレスに海岸画像とともに通知、あらかじめ設定した間隔にて自動更新（通知）される。これにより、有事に海岸にどの程度の避難者がいて、時間経過とともに避難が進んでいるかを確認可能。さらに、ヘルプシグナルの自動検知も試験運用中。

2023年には離岸流エリアに利用者が立ち入った際にドローンがその地点まで自動飛行し注意喚起のアナウンスをして自動で戻ってくるシステムの試験運用を予定。

② ウォータセーフティアプリ（WS）アプリの開発

前述のシステムと連動するスマートフォンアプリを2020年に開発し、全国のライフセーバーが活動する海水浴場情報とともに公開。

③ e-logの導入

ライフセーバーの活動記録の電子化を行い、2022年度より本運用。日々のデータが一元管理される。

④ ドローンパトロール

2021年、2022年に一部の地域で試験的に運用（神奈川県協定）。2023年より本運用にむけたトレーニングなどを開始。

(3) 監視救助及び巡視等に対する車両配備支援

- ・対象：都道府県協会
- ・内容：主に海水浴場開設期間に車両「ライフセーバーカー」の貸出し
- ・協賛：株式会社 SUBARU

	2022年	2021年	2020年
都道府県協会数	26 道府県+JLA 本部	21 道府県	3 県
車両台数	29 台	21 台	12 台

(4) 熱中症対策用飲料水等及びつば付きパトロールキャップの配備支援

- ・対象：都道府県協会及び加盟クラブ
- ・内容：飲料水、ゼリー、つば付きパトロールキャップ
- ・協賛：大塚製薬工場株式会社

配備品	数量
OS-1 経口補水液	71 箇所 29,496 本
OS-1 経口補水ゼリー	71 箇所 6,330 個
つば付きパトロールキャップ	55 箇所 1,000 個



## < 2 > 資格認定事業

以下の資格認定講習会、更新講習会及びライフセービングサポーター講習会は「JLA アカデミー」と称する教育機関が実施した。JLA アカデミーは、本協会が有する水辺の事故防止や人命救助に関する専門的・総合的な技術や技能、知識等を身に付けるための機会を広く社会に提供することを目的としている。また、その目的を達成するため体系的な資格認定プログラムを有している。

### 1. 資格認定講習会及び更新講習会等の開催

本協会では、誰もが身につけるべき「自分自身を守る、溺れないためのプログラム」「目の前で人が倒れた場合の対処を学ぶプログラム」から、「実際に事故を未然に防ぎ、溺者を助ける救助技術」まで、水辺の事故をゼロにするための資格講習会を開催しており、それぞれのコースについての資格認定をしている。

\*当該資格認定事業では、ライフセーバーを養成することを目的としていない。広く人命救助と水辺の事故の減少に資するための資格認定講習会である。

\*ライフセーバーの認定についてはウォーターセーフティ及びBLS（CPR+AED）の両コースを取得し、さらに上位の知識、技能を得るための講習の受講が必要であり、不特定多数の者の利益の増進に寄与する事業とは言えず、またライフセーバーの人員確保という相互扶助の面から、その他の事業（相互扶助等事業）として実施する。

以下の資格認定講習会を開催し資格の認定を行う。また、資格取得者に対して更新講習を実施する。以下の2種類の講習を実施する。

#### (1) BLS\*（CPR\*\*+AED）コース

\*BLS・・・Basic Life Support（一次救命処置）心肺蘇生とAED、気道異物の除去の3つを合わせてBLSという。

\*\*CPR・・・cardiopulmonary resuscitation（心肺蘇生法）質の高い心肺蘇生とAED等の修得を目指し人命救助及び傷病者の社会復帰を目的に実施。

#### (2) ウォーターセーフティ(WS\*)コース

\*WS・・・水辺において自身を守ることのできる知識や技能のこと。水辺における活動やアクアスポーツ等の中で自らの安全を確保し、ライフセービングの基礎となる事故防止に備えることを目的に実施。

#### (3) 資格更新講習

[認定基準]

- ① 公益財団法人日本ライフセービング協会認定の資格を有すること。
- ② 水辺の事故防止及び救命等を目的に行われる資格講習会等を通じて、公益財団法人日本ライフセービング協会が同等認定として認める専門的知識及び技術を満たす資格を有すること。

資格名	発行数	開催数
B L S コース	2, 289	211
Water safety コース	1, 287	141

## 2. ライフセービングサポーター講習会の開催

子どもの保護者や民間スポーツクラブのインストラクター、学校教員等に向けた安全教室として、企業研修や学校の授業として広く一般の要望に合わせた各種安全教育プログラム「ライフセービングサポーター講習会」を実施した。プールでのウォーターセーフティやAED、応急処置などの体験ができる。

### ※日本財団助成事業

サポーター講習会	開催数	修了証発行数
B L S	75	5, 157
Water Safety	94	11, 021

### ※株式会社 SUBARU 協賛事業

都道府県協会	日程	会場
富山県ライフセービング協会	10/23	北陸スバル本社
愛知県ライフセービング協会	12/16	名古屋スバル本社
日本ライフセービング協会	2/14	スバル本社
東京都ライフセービング協会	3/18-19	東京スバル大和田店

## 3. 資格認定講習会及びライフセービングサポーター講習会等の普及・促進に係る支援事業

地方開催での資格認定講習会（指導員養成、更新講習会含む）での指導員の実施に関わる旅費を支援した。また、ライフセービングサポーター講習会での実施諸経費を一部補助した。

## < 3 > 安全・防災教育・環境保全事業

### 1. 安全・防災教育の普及・啓発に向けた教育支援活動

#### (1) 臨海教育等へのライフセービング指導協力

臨海教育等を通じて中学生に対する安全・防災教育を行った。新型コロナウイルス感染症の影響もあり参加者数の減少、一部プログラムの変更等もあったが、3年ぶりに実技体験を交えて活動することができた。

主催	日程	会場	参加数
北区教育委員会 岩井臨海学園	7月21日～8月12日	岩井海岸 (千葉県南房総市)	1,194名

主催	日程	会場	参加数
国土舘大学 1年生	7月11日～7月12日	岩井海岸 (千葉県南房総市)	165名
国土舘大学 2年生	9月10日	岩井海岸 (千葉県南房総市)	155名
国土舘大学 3年生	9月13日	岩井海岸 (千葉県南房総市)	149名

主催	日程	会場	参加数
愛知淑徳大学 健康医療科学部スポーツ・健康 医科学科救急救命学専攻	[1] 8/23-8/25 [2] 9/6-9/8	長久手キャンパス 屋内温水プール	[1] 31名 [2] 37名

(2) 小中学校等へのライフセービング指導協力

各小中学校からの協力要請に応じた安全・防災教育及び海洋教育推進に向けた ICT 教育プログラムの開発と実践を行った。新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、学校によって ICT 教育プログラムを活用した室内での学習プログラムのケース、プールでの実技プログラムのケースと開催形態が異なった。

主催	日程	会場	参加数
板橋区立新河岸小学校 プール実技プログラム	6月16日	新河岸小学校プール (東京都板橋区)	50名
柏市立土小学校 プール実技プログラム	7月1日 7月4日	土小学校プール (千葉県柏市)	280名
福生市立福生第五小学校 プール実技プログラム	7月7日	福生第五小学校プール (東京都福生市)	110名
板橋区立蓮根第二小学校 プール実技プログラム	7月12日 7月14日	蓮根第二小学校プール (東京都板橋区)	190名
あま市立篠田小学校 プール実技プログラム	7月14日	篠田小学校プール (愛知県あま市)	183名
羽村市立羽村東小学校 プール実技プログラム	7月14日 7月15日	羽村東小学校プール (東京都羽村市)	240名

### (3) 海洋教育支援推進に向けた ICT 教育用プログラム開発 ※日本財団助成事業

#### <開発目的>

海洋教育を広く推進していくために、水辺の安全教育は必須と考える。水泳を含めた水辺教育のファンデーションプログラムとなる「安全に関する知識と技能習得」のための ICT 教育の開発を目的とした。小学校、中学校学習指導要領改訂に伴う「水泳」における「安全確保につながる運動」「水泳の事故防止に関する心得」等を反映したウォーターセーフティプログラムの構築を行った。

#### <実施内容>

- ① 「e-Lifesaving」の「ライフセーバーのいない海編」のコンテンツ追加制作
- ② 「e-Lifesaving」を活用した安全教育プログラムの学校教育への普及

実施対象	会場	参加数	協力/連携
アクラプスイミングスクール	関東 5 店舗	134 名	金子スポーツ振興株式会社
ベネッセスタイルケアの学童	オンライン	550 名	株式会社ベネッセスタイルケア
品川区立大井第一小学校保護者	オンライン	800 名	品川区立大井第一小学校 PTA
諫早市立諫早中学校全校生徒	オンライン	820 名	諫早市立諫早中学校

### (4) 学校教員への研修協力

教員を対象とした一次救命処置や水辺の事故防止等について研修会を行った。

主催	日程	会場	参加数
足立区教育委員会 水泳事故防止研修会	6 月 6 日	千住温水プール (東京都足立区)	33 名
高槻市教育センター 保健体育科研修	6 月 16 日	高槻市教育センター (大阪府高槻市)	60 名
中央区立阪本小学校 プール実技プログラム	6 月 25 日	阪本小学校プール (東京都中央区)	15 名
能勢ささゆり学園	7 月 8 日	能勢ささゆり学園 (大阪府豊能郡)	55 名

## 2. 安全・防災教育の普及・啓発に向けた調査研究

### (1) 防災力強化事業

防災教育の推進及び公的救助機関（海上保安庁、気象庁、警察、消防）との連携について検証/調査、地震発生後の津波に対する備えや対策について調査研究した。

連携機関	連携内容	2022年度の成果
気象庁	2020年12月24日に気象庁と日本ライフセービング協会が「水難事故防止・防災に関する協定」を締結したことにより共催事業を開始した	2022年11月15日に国立科学博物館にて、『安全対策や津波対策など海水浴場で命を守るための基本』と題して、中学生以上の来場者に対し、日本ライフセービング協会所属のライフセーバーが講演を行った。
<p>■気象庁ホームページ</p> <p>●津波フラッグ解説ページ  <a href="http://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/tsunami_bosai/tsunami_bosai_p2.html">http://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/tsunami_bosai/tsunami_bosai_p2.html</a></p> <p>●気象庁/知識・解説 YouTube チャンネルー「津波フラッグ」をおぼえよう！！  <a href="https://www.youtube.com/watch?v=fMMEvxmFphM">https://www.youtube.com/watch?v=fMMEvxmFphM</a></p> <p>●マンガ小冊子「津波フラッグ」をおぼえよう！！」を気象庁と共同制作</p>		

#### <津波フラッグ>

2020年の気象庁委員会にて津波フラッグが設定された。2021年、2022年とコロナの影響を受けたが各地の海水浴場では津波フラッグが配備されている。全国的に統一されていなかった津波避難時の旗が統一されたことでリスク管理が進んだ。なお、フラッグ決定には様々な意見があったが、聴覚障がい者の意見や視覚障がいにも配慮して、赤と白の格子模様であるU旗が採択された。

### 3. 安全・防災教育の普及・啓発に向けた教室・研修会の開催

#### (1) ジュニア・ライフセービング教室の開催

全国の子どもを対象にジュニア・ライフセービング教室を開催し、「自分の命は自分で守る」等の安全・防災教育を実施した。

#### ※日本財団助成事業

主催	開催日	会場	参加数
御宿 LSC	6/26	御宿中央海岸	9名
鎌倉 LG	6/19	材木座海岸	67名
静波 LSC	7/18	静波海水浴場	10名
	8/12		10名
若狭和田 LSC	7/19	高浜小学校、和田小学校、	84名
	7/26	内浦小学校、青郷小学校	48名
	8/27	城山海水浴場	
沖縄県 LS 協会	11/19	タピックタラソセンター、カンナビーチ	17名
札幌 LSC	8/6	厚田海浜プール	7名
	8/13		9名
新宮 LSC	7/18	新宮海岸	9名
	7/24		

館山 SLSC	7/9	北条海岸	37 名
富山 LSC	8/21	海老江海浜公園	40 名

※花王株式会社協賛事業

実施団体	日程	参加総数
日本ライフセービング協会	5/14	34 名
波崎 SLSC (茨城県)	7/30, 7/31, 8/6, 8/7	85 名
鹿嶋 LGT (茨城県)	8/3, 8/9, 8/15	89 名
勝浦 LSC (千葉県)	7/9, 7/23	81 名
館山 SLSC (千葉県)	7/9, 8/15	92 名
西浜 SLSC (神奈川県)	7/3	100 名
静波 LSC (静岡県)	7/25, 8/12, 8/21	73 名
天橋立 LSC (京都府)	8/1, 8/11, 8/14	87 名
島根県ライフセービング協会 (島根県)	6/26, 7/24, 8/6, 8/11, 8/28, 9/3	95 名
萩 SLSC (山口県)	7/24, 7/31, 8/7, 8/13	99 名
沖縄県ライフセービング協会 (沖縄県)	7/18	14 名

(2) ジュニア・ライフセービング教室の開催に関する資器材等の配備支援 ※日本財団助成事業

- ・対象：都道府県協会及び加盟クラブ
- ・内容：ニッパーボード、ジュニア教本、ジュニアキャップ等

関連資器材	数量
ライフジャケット	150
ジュニア用ラッシュガード	150
ジュニア用キャップ	150
ニッパーボード	35
ジュニア教室用ポップアップバナー	5
ジュニアテキスト	4,500
水辺の安全啓発クリアファイル	16,178
ライフセービングサポーター修了証 BLS 編	5,157
ライフセービングサポーター修了証 WS 編	11,021

(3) 青少年に対する研修会

ライフセービングを担う人材を育成するために大学生を対象とした研修会を実施した。

日程	会場	内容	参加数
2月12日	大学セミナーハウス (東京都八王子市)	学生リーダーズキャンプ	30 大学 52 名

(4) ライフセーバーに対する研修会

「水辺の事故ゼロ」を目指し、より質の高い監視救助活動を行うことを目的に、溺水事故防止に関する事項、溺水事故の事例検証について情報共有する研修会やライフセーバー自身のスキルアップを目的とした研修会等を実施した。

■シミュレーション審査会 ※日本財団助成事業

日程	会場	参加数
11月5日	吉佐美大浜岸（静岡県下田市）	・8チーム 48名 ・スタッフ他 71名
11月12日	東の輪海岸（新潟県柏崎市）	・3チーム 18名 ・スタッフ他 54名
11月20日	横浜海の公園（神奈川県横浜市）	・14チーム 84名 ・スタッフ他 147名
11月27日	須磨海岸（兵庫県神戸市）	・3チーム 18名 ・スタッフ他 52名
12月18日	田ノ浦ビーチ（大分県大分市）	・4チーム 24名 ・スタッフ他 55名

■スキルアップ研修会

日程	内容	会場	参加数
5月21日	レスキューミーティング	富山県富山市	22名
5月22日	レスキューミーティング	新潟県新潟市	25名
10月8日	レスキューミーティング	神奈川県藤沢市	112名
3月28日	サーフトレーニングクリニック	千葉県山武市	22名

(5) インフレーターレスキューボート（IRB\*）に関する消防向け教育カリキュラムの開発と IRB レスキュー技術に関する研修会等の開催 \*Inflatable Rescue Boat・・・救助用ボートの意

浮遊物が多い洪水や津波・高潮などの水災害において、より多くの要救助者を運搬する機材として優位である IRB に関し、全国の消防を対象にした教育カリキュラムの開発と IRB レスキュー技術に関する研修会等を開催し、ライフセーバーと全国消防が連携することで、より多くの救助が可能な体制の構築を図った。

■IRB を用いた救助技術講習会 ※日本財団助成事業

日程	参加地域消防	参加数
6月17-18日	山口県山口市消防本部	16名
10月6日	宮崎県延岡市消防本部	10名
10月12-13日	千葉県夷隅郡市広域市町村圏事務組合消防本部	16名
10月25日	岡山県倉敷市消防局	16名

11月2日	長野県須坂市消防本部	10名
11月8-10日	富山県砺波地域消防組合消防本部	19名
11月17-18日	福岡県福岡市消防局	20名

(6) 実践研究報告会「令和の日本型学校体育構築支援事業」 ※スポーツ庁委託事業

学校教育における水難事故防止対策の強化を目指し、全国の監視救助活動の現場から得た救助救命の実績と多くの児童生徒に対して実践してきたウォーターセーフティプログラムをもとに、自己保全のための学習内容や指導方法の工夫、さらには有効な教育連携についての実践研究を実施し、その成果を実践研究報告会で発表した。

テーマ	日程	目的
実践研究報告会 「学校における水難事故防止対策の強化」	2月26日	学校における水難事故防止対策としての授業事例から、具体的な授業内容や工夫、留意点等、広く発信することで、授業実施の可能性を広げ、全ての子ども達の学ぶ機会につながることを目的として開催。

内容	報告者
スポーツ庁委託事業 概要説明	日本ライフセービング協会教育本部長 松本貴行
『e-Lifesaving×水泳実技』 ウォーターセーフティ教育の実践研究	成城学園初等学校保健体育科教諭 酒井和也
水泳実技のない学校における ウォーターセーフティ教育の実践研究	支援事業研究推進委員 高木貴光
特別支援学校・養護学校における ウォーターセーフティ教育の実践研究	聖坂養護学校教諭 植木将人
ライフセービングクラブとの指導連携における 実践研究	御宿ライフセービングクラブ 代表 林昌広
パネルディスカッション	座長 吉川慎之介記念基金 代表 吉川優子 パネリスト 成城学園中学校高等学校 校長 中村雅浩 聖坂養護学校 校長 佐野明紀 二宮中学校 校長 伊庭しげみ
基調講演 1 『日本水泳連盟が考える水泳における安全教育』	公益財団法人日本水泳連盟常務理事 鷲見全弘
基調講演 2 『WS 教育の重要性』	中央大学 教授 小峯力
総括・閉会挨拶	国際武道大学 教授 山本利春



(7) 溺水防止シンポジウムの開催

国際連合総会（第 75 会期議事日程議案 24）を受け、国民の水辺に対する安全意識（自助・共助）を高めるとともに、溺水防止にかかわる官民組織の横断的な取り組みの促進や連携の強化を探ることを目的に「溺水防止シンポジウム」を開催した。

テーマ	日程	目的
溺水を 1 件でも減らし、水辺を楽しむ社会へ	5 月 28 日	国際連合総会（第 75 会期議事日程議案 24）を受け、国民の水辺に対する安全意識（自助・共助）を高めるとともに、溺水防止にかかわる官民組織の横断的な取り組みの促進や連携の強化を探る

内 容	登壇者
世界保健機関（WHO）ビデオメッセージ	Dr. David Meddings
海水浴場における溺水事故の現状とウォーターセーフティ教育の重要性	日本ライフセービング協会 副理事長/教育本部長 松本 貴行
学校体育を通じた溺水事故防止にむけた取り組み実践	スポーツ庁 政策課 企画調整室室長補佐 古市 智
溺水事故調査から見えた原因と対策	消費者庁 消費者安全課 事故調査室長 松本 浩司
消防における水難救助技術の向上についての取り組み	総務省消防庁 国民保護・防災部 参事官 村川 奏支
海岸における取り組み事例	国土交通省 水管理・国土保全局海岸室長 奥田 晃久
共につくる Water Safety	海上保安庁 交通部 安全対策課課長 松浦 あずさ
フリートークセッション 「溺水を 1 件でも減らすために」	（ファシリテーター）大阪大学大学院工学研究科教授・工学博士 青木 伸一 （スピーカー）前段の登壇者 6 名、および日本ライフセービング協会 副理事長 高野 絵美、救助救命本部長 石川 仁憲、事業戦略室 上野 凌
閉会挨拶	日本ライフセービング協会 理事長 入谷 拓哉

(8) 誰でも海を楽しめる環境の創出 ※日本財団「海と日本」助成事業

海というフィールドの特性を活かし、既存のライフセービングクラブ（LSC）が実施している障がい者を対象とするサポートカリキュラムと連携して、障がいの課題を取り除き、障がいの有無に関わらず、誰でも安全に海を楽しめる環境の創造に向けて各事業のサポートを行い、「障がいの者の海浜利用のサポートガイドライン（案）」を作成した。

日程	内容	会場と実施クラブ	参加数
8月6日	水陸両用車イスやライフジャケットを用いて障がい者の親水をサポート	アジュール舞子海水浴場 兵庫県神戸市/神戸 LSC	5名
8月6日～ 8月14日	海水浴場のサービスとして、バリアフリービーチ運営をライフセーバーが担い、水陸両用車イス体験、ニッパーボード体験等、障がい者の親水をサポート	SEAPARK 柿崎 静岡県下田市/下田 LSC	30名
8月28日	水陸両用車イス体験、ニッパーボード、ビックサップ体験、親子シーカヤック体験等、障がい者の親水をサポート	鼠ヶ関旧海水浴場 山形県鶴岡市/山形 LSC	134名
10月2日	NSA パラサーフィン エキシビジョンマッチ 2022 NSA サーフィン大会 パラサーフィンの部の選手の救助・救護及び水陸両用車イスを活用してパラ選手の砂浜海中移動をサポート	白浜大浜海岸 静岡県下田市/下田 LSC	17名
成果物：「障がい者の海浜利用のサポートガイドライン（案）」を作成した。			

#### 4. 環境保全活動

全国の水辺の清掃及び水辺を利用する一般市民に対して環境保全についての教育を実施した。

##### ■ビーチクリーン活動

主な日程	会場	主な内容
7月1日～8月31日	各地の海水浴場等（約100か所）	ビーチクリーン活動

## < 4 > 競技推進事業

### （事業実施の背景）

ライフセービング競技の目的は人命救助の向上にある。実際の現場での救助の際には瞬時に必要とされる行動をとれる技術の錬磨と基礎体力が必要であり、それには日頃の救助技術等の練習・訓練・体力づくりがその基礎となる。技術の向上、持久力や基礎体力の向上には他者との競い合いが最も近道であり、結果そこで仲間との連帯感の向上、技術の再確認等がなされる。そのことが人命救助へとつながるのである。競技種目はビーチ種目、スイム種目、ボード&サーフスキー種目、オーシャンマンレース等があり、その対象もジュニア（小学生）、ユース（中学生/高校生）、学生、社会人など幅広い。

## 1. 主催競技会の開催

年間を通じてプールや海岸等で競技大会を実施した。

開催日	大会名	参加数	会場
5月7日～8日	第35回全日本プール競技選手権	42チーム343名	横浜国際プール（神奈川県）
6月4日～5日	全日本ジュニア/ユース/マスターズ（ビーチ）	30チーム394名	横浜海の公園（神奈川県）
6月11日～12日	SUP & Paddleboard 選手権大会	43名	外浦/白浜大浜/弓ヶ浜海岸（静岡県）
6月25日～26日	第35回全日本種目別選手権	53チーム433名	白浜大浜海岸（静岡県）
9月3日～4日	全日本ジュニア/ユース/マスターズ（サーフ）	26チーム460名	外浦海岸（静岡県）
9月24日～25日	第37回全日本学生選手権	36チーム531名	御宿海岸（千葉県）
10月8日～9日	第48回全日本選手権	52チーム521名	片瀬西浜海岸（神奈川県）
10月30日	第22回オシアンサーフチャレンジ in 白浜	10チーム105名	白良浜海水浴場（和歌山県）
11月19日～20日	全日本 IRB 競技プレ大会	荒天により中止	相良海岸（静岡県）
11月26日～27日	短水路プール競技記録会	21チーム163名	東京スイミングセンター（東京都）
12月24日	第2回全日本学生 SERC 選手権	10チーム40名	西ヶ谷屋内プール（静岡県）
12月25日	第2回全日本 SERC 選手権	15チーム60名	
1月28日～29日	第14回全日本学生プール競技選手権	44チーム410名	静岡県富士水泳場（静岡県）
2月18日～19日	全日本ジュニア/ユース/マスターズ（プール）	23チーム287名	日環アリーナ栃木（栃木県）

## 2. 選手強化等事業 ※協賛：(株)三洋物産/ (株)三洋販売

ライフセービング競技における競技者の競技力強化・育成事業を実施した。

### (1) 強化合宿・研修合宿等事業

日程	対象	会場	内容
4月16日	IRB-HPT	牧之原強化拠点（静岡県）	強化合宿
4月16-17日	HPT-A, B, C	日環アリーナ栃木（栃木県） 岩井海岸（千葉県）	強化合宿
5月21-22日	IRB-HPT	牧之原強化拠点（静岡県）	強化合宿
6月4日	ワールドゲームズ 日本代表	帝京大学（東京都）	強化合宿 メディアトレーニング
6月11-12日	ワールドゲームズ 日本代表	アスリートパーク湯の丸（長野県）	強化合宿
6月18-19日	IRB-HPT	牧之原強化拠点（静岡県）	強化合宿
6月25日	HPT スタッフ	ホテル伊豆急会議室（静岡県）	コーチング論
7月23-24日	LWC 日本代表 オープン&ユース	国際武道大学・ 御宿海岸（千葉県）	強化合宿
8月6-7日	LWC 日本代表 ユース	岩井海岸・ 館山プール（千葉県）	強化合宿

8月20-21日	LWC 日本代表 オープン	柏崎市内海岸・ 柏崎アクアパーク（新潟県）	強化合宿
8月20-21日	LWC 日本代表 ユース	新宮海岸・ アクション福岡（福岡県）	強化合宿
8月20日	IRB-HPT	牧之原強化拠点（静岡県）	強化合宿
9月3-4日	LWC 日本代表 オープン	片瀬西浜海岸（神奈川県）	強化合宿
10月15-16日	IRB-HPT	牧之原強化拠点（静岡県）	強化合宿
10月23日	HPT スタッフ HPT-A, B, C	港南いきいきプラザ（東京都）	言語技術セミナー
3月19日	HPT スタッフ HPT-A, B, C	ビジョンセンター浜松町（東京都）	第13期 HPT キックオフ ミーティング

(2) 国際競技会等への代表選手選考及び派遣事業

大会名	大会期間	会場	総合順位
第11回ワールドゲームズ2022年 バーミングハム大会	7月10日～11日	アメリカ バーミングハム	8位/9か国
LIFESAVING WORLD CHAMPIONSHIPS 2022 in Riccione, Italy	9月27日～10月2日	イタリア リッチョーネ	7位/50か国

3. スポーツ教室等開催事業

小・中・高校生、学生及び一般を対象にライフセービングスポーツの楽しさと基礎的な技術の習得を通じて地域のライフセービングスポーツの普及・振興を図った。

日程	対象	会場	内容
4月17日	大学生～一般	相良海岸（静岡県）	IRB 競技の技術向上
7月3日	中学生～一般	シーサイドももち海浜公園・百道浜 （福岡県）	オーシャン競技の技術向上
7月4日	福岡市立西新 小学校5年生	シーサイドももち海浜公園・百道浜 （福岡県）	学校交流プログラム
11月26日～ 27日	小学生～一般	東京スイミングセンター（東京都）	プール競技の技術向上

#### 4. ドーピング防止活動推進事業

国内外のドーピング防止活動の動向を踏まえ、日本アンチ・ドーピング機構に加盟・連携し、ドーピング防止教育・啓発活動を実施した。

日程	内容	参加対象	参加数
5月7-8日	ドーピング検査 (横浜国際プール)	第35回全日本プール競技選手権 参加者	実施人数 非公開
5月7-8日	アウトリーチ活動 (横浜国際プール)	第35回全日本プール競技選手権 参加者	44名
6月12日	アンチ・ドーピング研修会 (GMOアスリートパーク湯ノ丸)	TWG2022 派遣選手・帯同スタッフ	14名
7月24日	アンチ・ドーピング面談 (国際武道大学)	LWC2022 派遣選手オープン・ユース	15名
8月6-7日	アンチ・ドーピング研修会・面談 (千葉・岩井海岸)	LWC2022 派遣選手ユース	10名
8月20日	アンチ・ドーピング研修会 (アクション福岡) ※リモートで実施	LWC2022 派遣選手ユース・帯同スタッフ	17名
8月20-21日	アンチ・ドーピング研修会・面談 (新潟シーユース雷音)	LWC2022 派遣選手オープン	12名
8月27日	アンチ・ドーピング研修会 ※リモートで実施	LWC2022 派遣選手ユース保護者・帯同スタッフ	23名
9月4日	アンチ・ドーピング面談 (神奈川片瀬西浜海岸)	LWC2022 派遣選手オープン	11名
10月7-8日	アウトリーチ活動 (神奈川片瀬西浜海岸)	第48回全日本選手権 参加者	107名
11月20日	アンチ・ドーピング研修会 (静岡県牧之原市)	全日本 IRB 競技プレ大会 参加選手・サポートスタッフ	29名

## < 5 > 国際交流事業

(事業実施の背景)

本協会は国内唯一の国際ライフセービング連盟 (ILS) への加盟団体として、その責務を果たす役割があり、これまでも様々な国際事業に積極的に取り組んできた。今後も水辺の事故ゼロに向け国際貢献するべくより一層の国際交流を深め、世界情勢を把握したうえで国際的な活動を推進していく。

ILS 主催の総会や理事会、各種専門委員会や事業に本協会役員や委員を参加させネットワークの構築や情報収集を実施し、ILS の戦略プランの遂行に貢献する。

## 【トピック】

- ILS 理事会/委員会

コロナ禍を経て世界選手権、ILS の対面会議が久しぶりに開催された。直接会うことにより活発な対話がされ、各国から JLA の貢献に期待を感じられた。また、JLA から多くのメンバーが ILS 委員会に所属し各分野で貢献した。

- 世界保健機関（WHO）から溺水防止シンポジウムへのオープニングメッセージ

2021 年 4 月の国際連合・第 75 回総会において、世界的な溺水防止に関する決議が採択された。それを受けて、2022 年 5 月に国民の水辺に対する安全意識（自助・共助）を高めるとともに、溺水防止にかかわる官民組織の横断的な取り組みの促進や連携の強化を探る「溺水防止シンポジウム」を開催した。シンポジウムに寄せて、世界保健機関 WHO 本部の Dr David Meddings 氏からメッセージをいただいた。WHO が各国に対して、国家レベルでの溺水防止策やウォーターセーフティに関する政策立案をするよう促しており、多くの分野の協力なくしては様々な溺水事故要因に対して防止策を講じることができないことや各セクターの横断的な協力が必要不可欠であることについてメッセージをいただいた。このシンポジウムが横断的な連携の第一歩であることを確信し、WHO からのメッセージは非常に重要なものであったと感じている。

- 世界溺水防止デー

国連決議で毎年 7 月 25 日が「World Drowning Prevention Day 世界溺水防止デー」と宣言された。日本国内の情報発信源となるべく専用ページを設置しキャンペーンを行った。

### 国際ライフセービング連盟（ILS）役員及び専門委員会等

- (1) 中川容子；ILS 理事、ILS アジア太平洋地区理事、ILS Drowning Prevention Commission
- (2) 石川仁憲；ILS Rescue Commission
- (3) 宮部周作；ILS Sports Commission、Multi-Sport Games Committee
- (4) 木村智美；Multi-Sport Games Committee
- (5) 栗栖清浩；Lifesaving Sport Regulations Committee
- (6) 青木将展；Future of Lifesaving Sport Committee
- (7) 泉田昌美；Lifesaving Sport for All Committee
- (8) 出木谷啓太；Athletes Commission

中川容子；ILS 理事、アジア太平洋地区理事、Drowning Prevention Commission		
<b>■主な内容</b> ILS、各国組織、団体及び WHO との連絡調整 世界溺水防止デーについて国内で啓発 国際会議出席など 溺水防止シンポジウムに向けての WHO 本部との連絡調整		
日程	会議名	備考
9/24	ILS 理事会	対面
9/23	ILS アジア太平洋地区理事会	対面

6/14, 12/6, 2/7, 4/5	Drowning Prevention Commission	オンライン 対面
9/23	Child Drowning Prevention Committee	オンライン
7/20	School of Population Health Advocacy Lab - Australia Advocacy for Drowning Prevention: From global to local ウェビナー登壇	オンライン スピーカー

石川仁憲 ; ILS Rescue Commission		
<p>■主な議案</p> <p>LS Position statements の改訂, 2022 ILS RESCUE WEBINAR SERIES, 対外連携等</p>		
日程	会議名	備考
5/19	ILS Rescue Operations Committee Meeting	オンライン
6/15	ILS RESCUE WEBINAR SERIES Meeting	オンライン
6/28	ILS RESCUE WEBINAR SERIES Medical,	オンライン
6/30	ILS RESCUE WEBINAR SERIES Rescue Test	オンライン
7/5	ILS RESCUE WEBINAR SERIES Rescue Presentation	オンライン
7/12	ILS RESCUE WEBINAR SERIES Education	オンライン
7/21	ILS Rescue Operations Committee Meeting	オンライン
9/15	ILS Rescue Operations Committee Meeting	オンライン
9/23	ILS Rescue Commission meeting	オンライン
11/17	ILS Rescue Operations Committee Meeting	オンライン
12/20	ILS Rescue Commission meeting	オンライン
1/19	ILS Rescue Operations Committee Meeting	オンライン

宮部周作 ; ILS Sports Commission、Multi-Sport Games Committee Chair		
日程	会議名	備考
9/20	ILS Sport Commission Meeting	対面

木村智美 ; Multi-Sport Games Committee		
<p>■主な議案</p> <p>五輪への競技登録を働きかける取り組み、各大陸における五輪に繋がる重要な競技大会の調査・スケジュールまとめ、関係者への働きかけ等</p>		
日程	会議名	備考
10/17	Multi-Sport Games Committee 議長と ILS Sport Commission・各大陸競技大会・五輪のステータスに関する情報共有	オンライン、メール

栗栖清浩 ; Lifesaving Sport Regulations Committee		
<b>■主な議案</b> ILS 競技規則改定審議、LWC2024 ハンドブック準備、今後の競技種目検討、他		
日程	会議名	備考
9/27	Riccione 会議 : ・LWC2024 ハンドブック ・今後の競技規則改定日程確認 ・インクルーシブ競技について ・LWC 未実施競技の世界記録認定について ・種目変更検討について	対面、メール

青木将展 ; Future of Life Saving Sport Committee		
<b>■主な議案</b> 世界大会・ワールドゲームズ等の競技会の形式等について調査・研究を行い、革新的なイベントを検討していく。		
日程	会議名	備考
7/4	LWC2022 ミーティングの発表内容の募集	メール

泉田昌美 ; LS Sports Commission Lifesaving Sport for All Committee		
<b>■主な議案</b> ジェンダーや障害を持つ人たちの競技/活動について ニュージーランドやオーストラリアの障害を持つ子供たちの競技会について		
日程	会議名	備考
12/18	Sport for All Committee Meeting	オンライン

出木谷啓太 ; Athletes Commission		
<b>■主な議案</b> LWC2022 レビュー ジュニアワールドの年齢層について 12月パースでの世界会議について 最新のルールブックについて		
日程	会議名	備考
4/26	Athletes Commission	オンライン



## < 6 > 広報活動事業

### 1. SNS 利活用による情報発信

公式ホームページ等、SNS を通じて本協会の理念や事業活動を情報発信した。

媒体	ページビュー	ユーザー数
公式 JLA サイト	269,733 (前年比-3.55%)	163,546 (前年比+8.72%)
公式 LIFESAVING サイト	633,971 (前年比+3.68%)	143,104 (前年比+15.55%)

媒体	フォロワー数
公式フェイスブック	6,059 (前年比 +11.2%)
インスタグラム	3,206 (前年比 +18.7%)

### 2. 広報資料の作成

プレスリリース等の広報資料を通じて当協会の理念や事業活動を情報発信した。

媒体名	件数
プレスリリース	8

## < 7 > その他の事業

### 1. 関係諸団体との連携推進

本協会の理念や活動目的に賛同・協力する地方ブロック協会、都道府県協会や加盟クラブ、関連諸団体と積極的に連携し、外部団体や広く国民に対してライフセービングの普及・促進を図る。また、関係する官公庁や教育諸機関及びスポーツ諸団体等との積極的な連携を促進した。

会議名等	日程	内容	会場
都道府県協会 代表者会議	10月22日	意見交換会	東洋ホテル(福岡市) ※対面およびオンライン

連携/加盟/関連団体	内容等
日本スポーツ協会	(新規)承認団体として加盟
日本スポーツ政策推進機構	(新規)一般会員として団体加盟
UMI 協議会	(新規)活動会員として団体加盟
日本水路協会	(新規)「沿岸海域の総合管理のための地形データの整備プロジェクト」委員委嘱
気象庁	(継続)津波旗講演会/講師派遣 (継続)津波旗啓発ポスター、リーフレット制作協力 (継続)津波旗ポスター制作協力 (継続)津波旗デモ映像 (継続)気象庁との水難事故防止・防災に関する協定(2020-12/24)
海上保安庁	(継続)「海の安全推進本部・海の安全推進アドバイザー」委員委嘱 (継続)水辺の安全教育プログラム推進「e-Lifesaving」制作協力
消費者庁	(継続)「消費者安全調査委員会専門委員」委嘱
スポーツ庁	(新規)委託事業「令和の日本型学校体育構築支援事業」 (継続)「水泳等の事故防止について(通知)」 (継続)「スポーツ施設等安全管理講習会指導員派遣協力(通知)」 (継続)ICT 教育コンテンツ「e-Lifesaving」情報提供
日本水泳連盟	(継続)日本水泳連盟主催 OWS 競技会及び国民体育大会等の安全担当員及びライフセーバー派遣
日本トライアスロン連合	(継続)日本トライアスロン連合主催競技会及び国民体育大会等への安全担当員及びライフセーバー派遣
日本サーフィン連盟	(新規)JSUPPC 大会の共催 (継続)WSUPPC 世界大会への選手派遣
日本マスターズ水泳協会	(継続)日本マスターズ水泳協会主催競技会へのライフセーバー派遣
日本ワールドゲームズ協会	(継続)JLA 事務局長が監事として参画
日本救護救急学会	(継続)JLA メディカルダイレクター他役員が理事として参画
民間救命士統括体制認定機構	(継続)JLA 理事長が理事、そのほか専門委員が統括医師研修認定委員会委員、救急救命士研修認定委員会委員として参画
吉川慎之介記念基金	(継続)水辺の安全教育プログラム推進「e-Lifesaving」普及協力
河川財団	(継続)水辺の安全教育プログラム推進「e-Lifesaving」制作協力
御宿町(千葉県)	(継続)IoT 監視救助システム「海辺のみまもりシステム」による離岸流等事故防止活動の実施(2019年運用開始)

宮崎市（宮崎県）	（継続）IOT 監視救助システム「海辺のみまもりシステム」による離岸流等事故防止活動の実施（2020 年運用開始）
高浜町（福井県）	（継続）IOT 監視救助システム「海辺のみまもりシステム」による離岸流等事故防止活動の実施（2021 年運用開始）
鎌倉市（神奈川県）	（継続）IOT 監視救助システム「海辺のみまもりシステム」による離岸流等事故防止活動の実施（2022 年運用開始）
<u>下田市（静岡県）</u>	<u>（新規）IOT 監視救助システム「海辺のみまもりシステム」による離岸流等事故防止活動の導入準備</u>
神奈川県	（継続）海岸における水難事故防止等に向けた取り組みの推進と安全安心な海岸づくりの実現を図る「連携と協力に関する包括協定」締結（2020 年）
<u>牧之原市（静岡県）</u>	<u>（新規）「ライフセービングスポーツの発展と人材の育成・強化に関する包括協定」締結（2022-5/9）</u>
国際武道大学（千葉県）	（継続）「ライフセービングスポーツの発展と人材の育成・強化に関する包括協定」締結（2021-4/1）
<u>学校法人国土館（東京都）</u>	<u>（新規）「ドローンを活用した防災・救急救助の発展とそれに係る人材の育成・交流に関する包括協定」締結（2022-7/1）</u>

## 2. 認定海水浴場認証事業 ※日本財団助成事業

国際ライフセービング連盟のリスク評価指標及び本協会独自の指標に基づき海水浴場の安全性を総合的に評価し認証する「認定海水浴場認証事業」を行った。

今年度を終え以下含め、合計で 33 か所となっている。

	実施場所
新規認証 8 か所	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小田の浜海水浴場（宮城県気仙沼市）</li> <li>2. 菖蒲田浜海水浴場（宮城県七ヶ浜町）</li> <li>3. 興津海水浴場（千葉県勝浦市）</li> <li>4. 湘南ベルマーレひらつかビーチパーク海水浴場（神奈川県平塚市）</li> <li>5. 内海千鳥ヶ浜海水浴場（愛知県南知多町）</li> <li>6. 古座間味ビーチ海水浴場（沖縄県座間味村）</li> <li>7. 阿真ビーチ海水浴場（沖縄県座間味村）</li> <li>8. 北浜ビーチ海水浴場（沖縄県座間味村）</li> </ol>
更新認証 7 か所 ※更新 3 年	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 御宿中央海水浴場（千葉県御宿町）</li> <li>2. 黒根海水浴場（東京都新島村）</li> <li>3. 泊港海水浴場（東京都新島村・式根島）</li> <li>4. 湯河原海水浴場（神奈川県湯河原町）</li> <li>5. 相良サンビーチ海水浴場（静岡県牧之原市）</li> <li>6. 静波海水浴場（静岡県牧之原市）</li> <li>7. 青島海水浴場（宮崎県宮崎市）</li> </ol>
リスク調査 3 か所	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日の出浜海水浴場（東京都大島町）</li> <li>2. 内海東浜海水浴場（愛知県南知多町）</li> <li>3. サンオーレそではま海水浴場（宮城県南三陸町）</li> </ol>

## 【その他の事業】

### (事業実施の背景)

人命救助、水辺の事故の減少・防止のためにはライフセービングの普及と同じく実際に人命救助を行うライフセーバーの存在が不可欠であるが、日本国内ではその数がまだまだ不足している。このような現状では、水辺の事故を防止することも、人命を救助することも困難となる。そこで、当事業では主に海岸、プール等で活動する認定ライフセーバーを養成する講習を開催し、正しい知識と技術をもったライフセーバーとしてその資格を認定する。認定された者は「認定ライフセーバー」等の名称を使用し、活動することができる。

### (事業の目的)

全国の水辺の事故防止、事故の減少、人命救助、水辺の安全利用の促進を図るため、認定ライフセーバー等の養成を行う。

### (事業の内容)

以下のコース別の資格認定講習会、研修会は「JLAアカデミー」と称する教育機関が実施する。JLAアカデミーは、本協会が有する水辺の事故防止や人命救助に関する専門的・総合的な技術や技能、知識等を身に付けるための機会を広く社会に提供することを目的としている。また、その目的を達成するため体系的な資格認定プログラムを有している。

## < 1 > 認定ライフセーバー養成のための資格認定事業

### 1. 認定ライフセーバー資格認定

資格認定は大きく以下のコースに分類されている。

- (1) サーフライフセービングコース
  - (2) プールライフガーディングコース
  - (3) IRB コース \*Inflatable Rescue Boat・・・救助用ボートの意
  - (4) ジュニアエデュケーションコース
  - (5) PWRC コース \*Personal Water Rescue Craft・・・救助用水上バイクの意
- さらに最上位資格として下記の資格がある。
- (6) アシスタントインストラクター・インストラクター(指導員)

すべての事業に共通して、

- ① ウォーターセーフティ及びBLS (CPR+AED) コースの受講が完了し、両者の資格を保有していなければその上位資格である上記各コースの資格を取得することはできない。以下、ウォーターセーフティ及びBLSの資格を「基礎資格」とする。
- ② 15歳以上でなければ資格を取得できない。

(1) サーフライフセービングコース

基礎資格を有した上で、取得できる資格は、ベーシックサーライフセーバー及びアドバンスサーライフセーバー資格である。

(2) プールライフガーディングコース

基礎資格を有した上で、取得できる資格は、プールライフガード及びアドバンスプールライフガード資格である。

(3) IRB コース

基礎資格及びベーシックサーライフセーバーの資格を有した上で、取得できる資格は、IRBクルー及びIRBドライバー資格である。

(4) ジュニアエデュケーションコース

基礎資格及びベーシックサーライフセーバー又はプールライフガードの資格を有した上で、取得できる資格は、リーダー資格である。

(5) PWRC コース

基礎資格及びベーシックサーライフセーバーもしくはアドバンスサーライフセーバー資格を有した上で、取得できる資格はPWRCクルー資格及びPWRCオペレーター資格である。

(6) アシスタントインストラクター及びインストラクター資格 (指導員資格について)

最上位資格として以下の各指導員資格を取得できる。

- ・BLS アシスタントインストラクター
- ・BLS インストラクター
- ・ウォーターセーフティアシスタントインストラクター
- ・ウォーターセーフティインストラクター
- ・サーフライフセービングアシスタントインストラクター
- ・サーフライフセービングインストラクター
- ・プールライフガーディングアシスタントインストラクター
- ・プールライフガーディングインストラクター
- ・IRB アシスタントインストラクター
- ・IRB インストラクター
- ・ジュニアライフセービングアシスタントインストラクター
- ・ジュニアライフセービングインストラクター
- ・PWRC アシスタントインストラクター
- ・PWRC インストラクター

これらの資格は共通して各コースの下位資格を取得した上で実務経験等の条件を満たした者が取得できるものである。

■認定ライフセーバー資格認定

資格名	発行数	開催数
ベーシックサーフライフセーバー	624	65
アドバンスサーフライフセーバー	130	22
IRB クルー	45	8
IRB ドライバー	16	6
リーダー	24	4
プールライフガード	79	17
アドバンスプールライフガード	5	2
PWRC クルー	4	1
PWRC オペレーター	1	1
資格更新	583	104
資格復活	99	45
指導員（新規）	94	18
指導員（継続）	-	-
合計	1704	293

■BLS 指導員養成講習会（以下含め計 437 名）

日程	会場	合格者
10月15、16、22、23日	流通経済大学（茨城県龍ケ崎市）	10
11月26、27、12月3、4日	東京医薬看護専門学校（東京都江戸川区）	5
12月10、11、17、18日	福山市市民参画センター他（広島県福山市）	2
1月8、9、14、15日	静岡市清水市民活動センター他（静岡県静岡市）	11
1月21、22、28、29日	大阪ハイテクノロジー専門学校（大阪府大阪市）	10
2月4、5、11、12日	湘南海岸公園サーフビレッジ（神奈川県藤沢市）	5
3月18、19、25、26日	神崎校区公民館（大分県大分市）	4
合計		47

■ウォーターセーフティ指導員養成講習会（以下含め計 333 名）

日程	会場	合格者
10月29、30日	流通経済大学（茨城県龍ケ崎市）	7
2月24、25日	静岡県富士水泳場（静岡県富士市）	14
3月5、6日	スポーツクラブビッグラン（広島県福山市）	3
3月11、12日	アミティ丹後/静の里温水プール（京都府京丹後市）	2
合計		26

■サーフライフセービング指導員養成講習会（以下含め計 240 名）

日程	会場	合格者
4月29、30、5月1日	三浦海岸（神奈川県三浦市）	2
5月3、4、5日	さがらサンビーチ（静岡県牧之原市）	6
5月7、7月9、10日	丹後由良海水浴場（京都府宮津市）	0
9月23、24、25日	島戸海水浴場（山口県下関市）	1
11月5、12、13日	大竹海岸（茨城県鉾田市）	7
合計		16

■IRB 指導員養成講習会（以下含め計 41 名）

日程	会場	合格者
3月11、12日	大竹海岸（茨城県鉾田市）	2
3月18、19日	さがらサンビーチ（静岡県牧之原市）	2
合計		4

■ジュニアライフセービング指導員養成講習会（以下含め計 45 名）

日程	会場	合格者
3月18、19日	東京海員会館（東京都中央区）	1
合計		1

2. 認定審判員資格認定及び審判員研修会の開催

ライフセービング競技会等で審判を行うための講習会を開催し、C級審判員の資格を認定する。さらに審判員に対する研修会を実施する。

審判員の認定については、認定審判員規程に従いこれを認定する。その他、上級審判としてS、A、B級審判員を定めている。

■C級認定審判員養成講習会（以下含め計 1669 名）

日程	会場	合格者
4月24日	オンライン	19
5月14日	オンライン	16
5月15日	オンライン	13
5月28日	オンライン	10
6月11日	オンライン	10
6月18日	オンライン	6
6月19日	オンライン	8
7月23日	オンライン	8
7月24日	オンライン	3
8月6日	オンライン	10

8月7日	オンライン	15
11月12日	オンライン	34
11月13日	オンライン	33
12月10日	オンライン	6
12月11日	オンライン	10
2月11日	日本体育大学	29
2月26日	オンライン	8
3月11日	東海大学静岡キャンパス	13
3月25日	オンライン	1
3月26日	オンライン	5
	合計	257

■審判員研修会

日程	会場	参加数
6月16日	オンライン	13
10月16日	オンライン	24
3月23日	オンライン	26
3月26日	オンライン	6
	合計	69

\* \* \* \* \*

指導員資格：「更新」認定基準

[認定基準]

- ① 公益財団法人日本ライフセービング協会認定の指導員資格を有すること。
- ② 水辺の事故防止及び救命等を目的に行われる資格講習会等を通じて、公益財団法人日本ライフセービング協会が同等認定として認める専門的知識及び技術を満たす資格を有すること。

その他の資格及び審判員資格：「更新」認定基準

[認定基準]

- ① 公益財団法人日本ライフセービング協会認定の資格を有すること。
- ② 水辺の事故防止及び救命等を目的に行われる資格講習会等を通じて、公益財団法人日本ライフセービング協会が同等認定として認める専門的知識及び技術を満たす資格を有すること。

(以上)